

校長室より④

2年生保育実習（7/7）



家庭科の授業の一環として、2年生が天龍保育所で保育実習を行いました。保育園児が楽しめそうな企画を授業で準備し、当日は園児と関わり合いながら体験をさせていただきました。

様子を見てみると2年生生徒は、小さい子どもたちと関わるのがとても上手でした。普段から村の中で小学生や保育園児と関わる機会が多い環境なのかも知れませんが、とても自然な関わりをしている姿が印象的でした。保育園児も生徒の企画に大変喜んで遊んでいました。

3年生福祉体験（7/11・12）



2年生職場体験（7/12・13）



3年生は、天龍村の福祉施設（養護老人ホームなど）へ福祉体験、2年生は村内の事業所（龍泉閣・満島屋・郵便局など）へ職場体験とそれぞれ数日間働く体験をしてきました。それぞれの場所で働いている方々がどのような事に気をつけながら、どんなやりがいを持って仕事をされているのかを知ることや実際にその場で活動してみることで、自分のキャリア形成に役立つ新たな気づきや願いを持つことができましたと思います。

事業所の方からは、積極的に関わって活動する生徒の爽やかな姿や中学生がいることで入所している方々が明るく元気になったなどと声をいただきました。

中学生にとって学校での学びが社会に繋がっていることも感じられたのではないのでしょうか。

「IT・AI時代の理系学習の大切さと国際化に向けた中高生の心構え」(7/21)



東京理科大学国際化センター長（元ドミニカ共和国大使）牧内博幸先生による講演会が行われました。牧内先生は飯田市川路の出身で飯田工業高校機械科を卒業し、法政大学夜間学生を経て外交官として活躍されました。本校のハンガープロジェクトにもご協力いただき、ドミニカ大使をされていたときにオリンピック選手にハンガーを渡していただいた縁もあります。

当日は表題にある演題で熱く語られました。好きなことを徹底的に学ぶ（没頭できる）こと、目標を高く持つこと、英語を学び視野を広げることや多様や柔軟な思考を持つことの大切さなど、牧内さんの外交官や大使として世界中でのご経験をもとにお話しく下さいました。

ちびてつキャラバン (8/9)



信州大学の有路憲一准教授のもとで学んでいる学生のみなさんが天龍中を訪れ、ちびてつキャラバン（哲学対話）を行いました。昼食を一緒に取りながら自己紹介をして互いに心をほぐしたところで、「ともだちって …ということ」というテーマで、思っていることを語り合ったり、深め合ったりしました。

「正解のない問い」に対して互いの考えを認めながら聞き合い、自分なりの考えをグループになり笑顔で話す姿が印象的でした。「道徳の授業」に近いものがありますね。

天龍中の生徒も「大学生」と交流していろいろな話をする中で、楽しい学びになったと同時に、ちょっと『お兄さん・お姉さん』との関わりから自己のキャリア形成にも素敵な時間になったと思います。

天龍中学校ではこのような多様な交流を大切にしています。